

第2回 茅ヶ崎地区 防災“も”まちづくりワークショップ開催概要

1 開催概要

日 時 令和4年12月11日(日) 13:00~16:30
場 所 茅ヶ崎市役所本庁舎4階会議室1, 2
参加者数 約50名

2 プログラム

- ① まちあるき・まちあるき結果のまとめ
- ② 商業施設との意見交換……………イオンリテール株式会社 ほんだ ひろみ 本田 弘巳氏 おかの や ともみ 岡野谷 知見氏
- ③ ワーク・ディスカッション
- ④ 発表
- ⑤ 閉会のあいさつ……………茅ヶ崎地区まちづくり協議会 こしかわ よしお 副会長 越川 善雄
- ⑥ 次回の確認

3 ワークショップ内容

◆まちあるき・まちあるき結果のとりまとめ

第1回ワークショップで、グループごとに話し合った確認ポイントを、実際にまちあるきで見に行きました。

直前まで天気が心配でしたが、当日は天候に恵まれ、温かい日差しの中、グループごとに異なる集合場所から、会場となる市役所に向けて、約1時間をかけてまちあるきを行いました。

いつも見ている場所でも、視点を変えて見ると、新たな発見や次年度以降の活動に向けたヒントがあったのではないのでしょうか。

会場に到着後は、まちあるきの結果をグループ内で話し合いながら、とりまとめを行いました。



第1回のワークショップで6つに区分したグループごとに、まちあるきを行いました。



グループ区分

<まちあるきの様子>



<とりまとめの様子>



◆商業施設との意見交換

茅ヶ崎地区は、住民のみならず、商業者、企業といった様々な方たちが活動しています。今後、この地区で行う「防災“も”まちづくり」では、そんな方たちと、日ごろから協力体制を築いておくことが有効です。今回のワークショップでは、地区内の商業者として、イオンリテール株式会社 イオン茅ヶ崎中央店からお二人にお越しいただき、これまでの災害対応やイオンにおける災害への備えについてのお話を頂いたうえで、参加者の皆様と意見交換を行いました。



C S 同友店販促課長 ほんだ ひろみ 本田 弘巳 氏



人事総務課長 おかの や ともみ 岡野谷 知見 氏

●本田 弘巳 氏のお話

これまでの災害対応としては、2019年の台風19号のことが挙げられます。それまで、災害の少ない茅ヶ崎市では、災害対応に縁がありませんでした。しかし、台風19号時は、相模川の上流の城山ダムが緊急放流されることが報じられ、浸水想定区域に避難指示が出されました。

イオン茅ヶ崎中央店の立体駐車場は約1,000台の車を収容が可能なことから、市民の方たちから避難場所として使わせてほしいという申し出があり、急遽、営業時間外に駐車場を開放することにしました。

その後、幸いなことに浸水等の被害はなく、台風が通過した午前1～2時頃に、避難していた市民からの要望により、駐車場の出口を開放いたしました。

立体駐車場の開放は、茅ヶ崎市と災害時の協定を結んでいる内容ではありませんが、市民の方たちのご要望に対応した事例となります。

イオンの中でも、直近に建設された店舗は災害対策が行き届いており、津波対応の建物や備蓄機能をもつ店舗もあります。その一方、2000年にオープンしたイオン茅ヶ崎中央店の建物は、必ずしも防災対策が十分とは言えません。ただ、台風19号の経験から、このような建物・駐車場でも、地域における1つのインフラとして、地域の皆様のお役に立てることがわかりました。今後は、災害への備えとして、地域との連携について、どのようなことができるのか。準備することが課題であると考えます。

●岡野谷 知見 氏のお話

過去の赴任先では、様々な地震を現地で経験しました。2004年10月の中越地震では、小千谷市に居り、震度6の地震でしたが、店舗のスプリンクラーが破裂し、店内が水浸しになる中、お客様の避難誘導を的確に行いました。その後、柏崎刈羽原発のある柏崎市に赴任していた際は1~2ヶ月間の店舗の閉鎖、東日本大震災では、品川の店舗で様々な対応を行いました。

これらの災害では、ライフラインが正常に機能せず、携帯電話はほぼ通じなく、固定電話のみしか使えませんでした。また、中越地震の際は、狭い自動車の中で過ごすことで、血流が悪くなり発症するエコノミー症候群が初めて話題となりました。東日本大震災では、帰宅困難者が話題となり、品川の店舗内のフードコートを開放して帰宅困難者の受け入れを行いました。その後、消防計画に帰宅困難者対策を入れることになりました。

イオンは、住民の方々の助けになるために、どのようなときも店舗を開け、災害時でも水やパンなどを載せてトラックを動かし、商品をお客様に届ける努力をしています。今後、防災や災害時の対応について、地域の方々と一緒に考えていきたいと思っています。

●質疑応答

- ・イオンは、災害の経験が会社の中で蓄積・共有されていることがわかりました。また、日常的に安否確認等の訓練をしているからこそ、災害時に行動ができると思うので、地域においても、防災訓練等が重要であることがわかりました。(地域)
- ・イオンでは、正社員、パート社員について、災害時に店舗を開ける際の決まり、連絡方法を準備していますが、ライフラインである通信手段が使えない場合に、どのように連絡をするのが課題となっています。(イオン)
- ・イオン茅ヶ崎中央店は茅ヶ崎市との協定に基づいて、災害時の応急生活物資の供給を行うことが約束されています。その一方で、台風19号では、立体駐車場の開放という施設の活用を行いました。このような対応については、マニュアル化されているわけではなく、すべて現場の判断で実施しています。(イオン)
- ・イオン茅ヶ崎中央店は協定に基づき、災害時は全市的な対応が求められます。茅ヶ崎地区との連携については、どのようなことができるのか、今後、考えていく必要があります。(イオン)



◆ワーク・ディスカッション

意見交換のあと、グループに分かれて、以下についてとりまとめを行いました。

- ①まちあるきの主要な点検結果
- ②商業施設等と連携について
- ③このワークショップで気づいたこと、今後の活動の中で活かそうな事

[グループ⑥]

ブロック塀が災害時に倒壊する可能性がある地点や、幅員が狭い道路で交通量が多いところが課題と思います。

まちの魅力としては、放置自転車が少なくマナーが良いこと、大型店舗や病院があること、住民が茅ヶ崎地区を気に入って住んでいるところが挙げられます。

商業施設については、イオンの経験を広く伝えることや、他の企業との足並みを揃え、マニュアル化して連携したい。また、TOTO等の工場との連携も進めていきたいと思います。



加藤教授との意見交換

JR東海道線の南側の市街地は延焼火災が広がる可能性があります、そのような時に、広域避難場所に指定されているTOTOへ、南側の住民が避難してくる可能性があります。茅ヶ崎地区では、自分たちの防災とともに、他地区からの受け入れについても考えておく必要があります。

[グループ⑤]

千ノ川沿いの遊歩道には桜並木があり、この地区の魅力と言えます。この遊歩道は、沿道の市役所、コンビニ、ケーキ屋さんなどの店舗をつなぐものであり、まちづくりの資源になる可能性があります。

円蔵小学校・中学校は避難所となっており、災害時には、近くのお医者さんと連携できるような体制づくりを進めたいです。

工場やJR、神奈川中央交通等の企業とWINWINな連携を考えていきたいです。

例えば、災害時にバス車両の開放や、北茅ヶ崎駅周辺の線路の横断等のルールづくりなどが考えられます。コンビニについてはトイレの開放や電源確保、甲羅本店の和室の開放など、連携を検討していきたいです。



歩いてみて発見できたことが多いので、今後も日常的なまちづくり活動として、まちあるきを実施し、防災の視点も入れていくことが有効だと感じました。また、自治会等で、企業や農地との連携について、交渉していくこともできるのではと思いました。

加藤教授との意見交換

普段から積極的に買物に行き、店舗との信頼関係を築くことが有効です。

まちあるきによって、気づかなかった資源を発見できたことは良いことであり、日ごろのまちづくり活動に活用すると良いと思います。

【グループ④】

茅ヶ崎駅に近いエリアで、大型店、公共施設、医療施設が多く、娯楽施設もあります。近隣に多くの生活サービスが立地しており、歩いて巡れることや、道が狭いこと、全て魅力として挙げられます。今後は、これら施設と防災に関する連携の方法を検討することが課題となります。



今後、イオンだけではなく、他の大型店との連携も進めていきたいです。また、若い人たちに防災分野に興味をもってもらい、参加してもらうためには、まちなかに若い人がいることが重要と思います。例えば、スケートボード場をつくることや、商店街でフリマ、マルシェ等を開催すること、インスタグラム等のSNSの活用も進めたいです。

加藤教授との意見交換

大型店との連携は重要である一方で、個別店舗との連携も重要です。例えば、飲食店には次の日に使う食材が確保されていることも考えられ、スポーツ施設にはシャワー等があります。そういったものを柔軟に活用すること。個別店舗や商店街との連携なども考えてはどうでしょうか。

【グループ③】

駅周辺には多くの機能が立地していて便利で、ほどよい田舎で何でもあることや、まちに精通している人が多く、まちを好きな人が多いことも魅力です。その他にも、中央公園内に珈琲屋さんがあると、にぎわいが生まれるなどの意見があり、まちづくりの希望がある地域と感じました。一方で、国道1号の地下道など防犯上危険なところや、マンションが増えて、新たな住民とのコミュニケーションが課題と思います。



既に、イオンと連携しているマンションがあるので、それをきっかけに、地域でも連携をしていきたいと思います。ただし、いざというときには、顔が見える窓口が必要なので、地域全体と大型店の連携の仕方、体制づくりが課題と思います。

この防災“も”まちづくりワークショップをきっかけに住民間の連携や、新しい人材の発掘を進め、まちづくりに繋がりたいと思います。また、SNSの活用などデジタル化にも取り組みたいです。

加藤教授との意見交換

今回は商業施設との連携について意見交換を行いました。一方で、工場との連携も考えられます。工場には様々な設備があり、災害時にはこの設備が役に立つことが想定されます。この地区には、大規模工場や小規模工場がたくさんあるので、工場との連携も検討していくことが望まれます。

[グループ②]

第六天神社は、地域で「いっとき避難場所」に指定しており、神社の隣には消防団の屯所もあり、歴史あるこの神社がまちの魅力であり、防災上の資源です。

また、十間坂自主防災会は、マニュアルを整備し、防災倉庫等の定期点検を実施しており、このような体制ができていることも魅力です。

一方で、道が狭いことが課題といえます。

イオンとは、今後も地域のニーズを伝え情報交換をしていき、業務内容や施設がわからない企業や工場も多いので、対話をしていきたいです。

今後の取り組みとしては、防災の視点で定期的にまちあるきをすること、祭りや行事に若者や子どもを巻き込むこと、道路に愛称を付けてコミュニケーションをとりやすくするなどの意見が挙げられました。



加藤教授との意見交換

この地区は、特に道が狭く、建物が密集しており、災害時に様々な危険性があると思います。それを背景に、自主防災活動が盛んになったと想定されます。この地区で、1つの自治会（十間坂自治会）が機能しているという面も、情報が伝わりやすいことや活動がまとまりやすい要因と考えられます。また、「いっとき避難場所」という地域のルールがあり、そこには消防団の屯所ある。避難者も含めて災害時に人的資源が集まる場所でもあります。とても素晴らしい取り組みだと思います。

【グループ①】

まちの魅力としては、公園に落ち葉が落ちていない、清掃がいきとどいているという自治会の力が挙げられます。また、電柱が道路ではなくて、民地内に設置されていることにより、道路が通行しやすくなっています。

今後の取り組みとしては、道路用地（三角地）を地域で活用していくことや、行き止まり道路をなくす取り組みをしていきたいです。

企業等との連携については、日ごろから飲みに行くときは地元で飲むなど、コミュニケーションをとることにより、WINWINの関係づくりをしていきたいです。今回つながったイオンとの関係を継続することや、他の企業との関係づくりを、地区全体で進めたいと思います。



加藤教授との意見交換

行き止まり道路は、災害時に民地内を通行できるように、住民同士で避難協定を結ぶ（事前に話し合っておく）という方法も考えられます。三角地は、道路用地ということで、供用されるまでは暫定的な空き地ということであれば、地域から道路管理者である市へ活用を提案して、地域の活動の場として使っていることが考えられます。個別の店舗との連携は、余力の無い店舗に協定等を結ぶことは難しいため、飲みに行くという例示がありましたが、日ごろからの信頼関係を築き、災害時に協力してもらえるような、暗黙のルールをつくっていくことが有効です。

【加藤孝明教授の全体講評】

3つの感想と、1つの提案をします。

1つ目、「人」、「モノ」、「しくみ」、「若干の根性」、「愛」といった5つの要素が重要です。この地区には5つの要素があると思いますので、これらをつなぎあわせることが重要です。イオン、住民以外の主体も探しながら、5つの要素を育てていくことが有効です。

2つ目、イオンは市と協定を結んでおり、市全体に貢献する必要があるということです。長岡の事例がありましたが、あの地域は、近くに住んでいる人が少なく、災害時の対応が茅ヶ崎地区とは異なることが考えられます。過大な期待はしないで、バランス感を持って連携を進めることが重要です。

3つ目、小さい災害は乗り越えやすいということです。台風19号は、ある意味、小さい災害と言えるでしょう。それよりも、とても大きい災害が起こる可能性もあります。大きな災害をイメージし、電気、ガス等のライフラインも使えず、建物の倒壊するような災害をイメージして、対策を考える必要があります。



最後に提案ですが、今回で2回のワークショップが終了し、次回が最終回となります。次年度の活動にどうつなげるかを考え、それぞれの立場で動き出してほしいと思います。次回までに、これまでのアイデアを基に、「何をするか」、「何ができるか」を具体的に考えてきてもらって、3回目のワークショップでまとめができれば良いと思います。第三者的に「こうするべきだ」という意見ではなく、「自分は何ができるか」、「連携するために何を始めるか」といったことを、次回に向けて、考えてみることを提案します。

◆閉会のあいさつ

前回のワークショップでは、意見が防災に集中しており、日常のまちづくりの話題は少なかったと感じています。

一方で、今日は、まちの活性化につながる意見が多く出たと思います。日ごろのまちづくり活動と防災がつながるように、自分自身も考えていきたいと思っています。

加藤教授から提案があったとおり、災害に備えて、やるのは自分たちなんだ。自分でできることは何なのか。災害を自分事と捉えて、次回のワークショップでとりまとめができるようにしたいと思っています。

本日は、みなさんの意見や、イオン茅ヶ崎中央店からのお話など、面白い話が聞けたと思っています。次回もよろしく願いいたします。



茅ヶ崎地区まちぢから協議会
副会長 こしかわ よしお 越川 善雄 氏